膨 張 鑄 造 術

Die Expansionsgusstechnik. Von B. Orban.

Z. Stomat. XXVIII Nr. 1 S. 9 (1930)

オルバン氏ガ米國滯在中見聞シタル最モ科學的ナ「インレイ」鑄造法トシテ、「ミネアポリス」ノメーヤー及マーベス Meyer u. Mavesl 兩氏ノ膨張鑄造術ヲ紹介シタモノニシテ極メテ、平易簡單ニ記載サレテアル。

蠟型製作ニツイテハインレイニハ直接法金冠ニハ間接法ヲ賞用シ直接法時ノメーヤー氏邊緣修正法トハ窩洞内ノ蠟型ヲ口腔内ニテ冷却セン場合、蠟ガ窩縁カラ離ル、コトヲ防グタメニ、窩縁カラ約 $\frac{1}{2}$ 耗内方ニ於テ、小ナル加熱「スパチュラ」ヲモツテ切り目ヲ入レ、コレヲ窩縁ニ壓接スルコトニシテ、切り目ニハ後カラ蠟ヲタラセバヨロシイ。隣接面ニアツテハ薄キ線條板ヲ蠟型ノ上ニアテ、加熱器具ヲモツテソノ上カラ壓接スル。大ナル鞍狀「インレイ」ノ時ハ咬合面ニ於テ蠟型ヲ二分シテ冷却シ、後ヨリ接合スル。鑄入線ハ直接徑 $\frac{1}{2}$ — $1\frac{1}{4}$ 耗、長サハ $\frac{1}{2}$ — 1 釐ノモノヲ用フ。間接法ノ場合銅鑲内ノ印象一部不正ナル時ハ少量ノ「カー」ノ「モデリング」ヲツケ、ソノマ、壓接シ、外部カラ加熱器具ニテ軟化セシムルヲ可トス。又銅鑲ノ取り出シ難キ時ハコレニニツノ孔ヲアケ絲ヲ通ジテ引き出セバ容易デアル。

埋没ハ最モ重要ニシテ、金ノ收縮一一二%ヲ蠟ノ膨張ニテ補ハシムルモノデアル。故ニ本法ヲ膨張鑄造法ト呼ブ、埋没材並ビニ埋没用具ハ一定ノモノガ既製販賣セラレテキルガ、各自調製シテ宜ロシイ。本法ハ外埋没ニ温水ヲ用ヒ、一定ノ溫度ニ於テ、埋没材ヲ灰化セシメツ、蠟型膨張ヲ行フガ特長デアル。即チ埋没ハ二回埋没ニシテ、水ト埋没材トハ一定ノ秤器ニテハカリ、攪拌器ヲ用ヒ混和スルモノデアル。第一回目ハ常溫ニテヤ、固ク練リコレヲモツテ蠟型及ビ鑄入線ヲ二耗ノ厚サニ埋没シ、十分ニ没マラザル中ニ第二回埋没ヲ行フ。コノ場合ノ水ハ五〇—六〇度(攝氏)ニシテ使用器具モ全部同溫ニ加熱シ、ヤ、ウスク練ツテ「リング」内ニ注入ス。

埋没終了後「リング」ハ、上部二・三耗ヲ水平面ニ出シ、檢溫器付キノ一定ノ溫浴器中ニ入レル。溫度ハ、攝氏四〇—六〇度(隣接面「インレイ」、 $\frac{3}{4}$ 齒冠ハ四五度、小臼齒ノ鞍狀「インレイ」ハ五〇度ソレ以上ハ六〇度)、埋没材ハ三十分後ニ蠟型ノ適度ナル膨張ヲ伴ツテ硬化ス。

次イデ「リング」ヲ蠟型排除器(「リング」ヲ「ネヂ」デ固定シ置キ、下方ノ密閉罐内ニ入タル水ヲ沸騰セシメ、生ジタル水蒸氣壓ヲモツテ蠟ヲ排除スル器具)ニツケ、蠟ヲ壓出セシメ後、埋没材ノ乾燥ニ移ル。

乃チ「リング」ハ冷却セシメタル齒鏡ヲカザシテ、曇リノ残り生ゼザルニ至ルマデ二〇〇度ノ溫度ニテ、一二乃至一五分間加熱乾燥ヲ繼續シ、一〇〇乃至一五〇度ノ溫度ニ於テ、一〇乃至二〇ポンドノ壓力ヲモツテ直チニ鑄造スルモノデアル。

診 断 ＝ 迷 ヒ シ 牙 關 緊 急

横 田 一 耳

原因不明ノ牙關緊急ニ就テハ既ニ吉田、種村氏等ノ報告アリ。本例モ亦大體兩症ニ一致スルモノナリ。即チ内科的及ビ外科的ニ大シタ所見ヲ認メズ、タゞ高度ノ牙關緊急ノミヲ訴ヘテ耳鼻科ヲ訪レタ患者デ此牙關緊急ガ如何ナル疾患ニ由來スルモノナリヤ、ソノ診断ニ迷ヒ一、二治療法ヲ試ミテフル間ニ漸次輕快ニ赴キ、發病後約一ヶ月ニシテ完全ニ治癒セル例デアツテ、結局種々ノ點ヨリ極ク輕度ノ破傷風デアラウト考ヘラル、モノデアル。

(大日本耳鼻咽喉科會々報第三十八卷第三號)

巨 大 ナ ル 義 齒 食 道 異 物 致 死 例

吉 田 申 次

患者 五十六歳 男子 農業 主訴 義齒ノ誤嚥

現病歴及現症 昭和六年八月十三日午後十一時頃睡眠中ニ(別ニ夢ヲ見タル記憶ナシ)平常ヨリ落チ易クナツテキタ上顎ノ義齒ヲ誤嚥シ直チニ目覺メタガ別ニサシタル痛ミモナク唯咽喉ノ下部ニ刺戟感ガアルノミデ水ハ容易ニ飲ミ込メタ。翌朝醫師ヲ訪レタガ格別ノ處置ヲ受ケズ次イデ十五日専門醫ヲ訪レ食道鏡下ニ摘出ヲ試ミラレタガ成功シナカツタ。胸背位及ビ側位ノ「レ」線寫眞ニヨルト異物ハ第二胸椎ノ下部カラ第五胸椎ノ上部ニカケテ陰影ヲ與ヘテキル。直達検査ニヨツテ見ルト、上門齒列カラ二一 cm ノ處ニ異物ヲ認メタ。異物ハ凹面ヲ腹側ニ凸面ヲ背側ニ向ケ腫脹シタ食道粘膜ノ中ニ深ク埋沒シテキル。久保式窺狀鏡デ剝離ヲ試ミ、久保式義齒破碎鉗子デ破碎シテ摘出シタ。異物ハ三・九 X 三・五ノ大キナ義齒デ鉤ハナイガ數年前破損シタ「ゴム」臺ノ右後部ハ鋭ク尖ツテキル。食物攝取ハ異物摘出後モ「カテーテル」營養法ニヨツタ。入院時カラ熱ハ三十八度乃至九度五分アツタガ摘出ノ日カラ消失シタ。後本患者ハ異物摘出後二十五日目ニ縱隔竇炎並ニ敗血症ノ下ニ死亡シタ。

食道内異物ヲ考フルニ大人ノ主ナルモノハ魚骨ト義齒デ、余ガ昭和六年十月、久保教授臨床デ調べタ所ニヨレバ明治四十年カラ昭和六年九月迄ノ食道異物例六〇一例中二十歳以上ノモノ二〇〇例アツテコノ中魚骨九九例、義齒七八例、其他二三例トナツテキル。而モ